

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立多治見北高等学校

学校番号

44

I 自己評価

学校教育目標	(1) 基礎的・基本的な知識・技能の修得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら考え学ぶ意欲や態度を育てる。 (2) 豊かな人間性と情操を養うとともに、自らの行動に責任をもち主体的に判断し行動する態度や、積極的に自己を活かす能力を育てる。 (3) 自己の在り方や生き方を考え、主体的に自らの進路を考える能力や態度を育てる。 (4) 地域社会への理解や関心を深めるとともに、国際化に対応できる能力を育てる。 (5) 教職員が業務内容を不断に見直し、働き方改革を進める。
--------	--

< 1 > 評価分野①： 教務部

1 今年度の重点目標と取組・実践内容

1 重点目標	I C T導入と授業改善を両輪とする、確かな学力を定着させるカリキュラムの研究開発。
2 重点目標達成のための取組	(1) I C Tを効果的に利用するスキルの向上。 (2) 生徒の主体的な学びを促す授業とI C Tの活用をつなげたカリキュラムの研究開発。
3 上記取組項目の具体的実践内容	(1) 校外の研修への積極的な参加と、そこで得た成果の共有化。 (2) 授業公開を活用したスキルの共有化。 (3) 教科内でのデジタル資料の共有化。 (4) カリキュラムの研究開発と成果の蓄積。
4 目標達成度の判断・判定基準・指標	(1) 研修参加者数の変化 (2) 生徒の授業評価の活用。 (3) 教科内外での情報交換の活性化。 (4) 教材の開発と蓄積。

2 自己評価

< 1 > 評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校評議員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

(1) 授業評価の結果 「授業内容の理解を深めるために、情報機器が活用されている」という項目の評価が、令和元年度7月の調査では「理科、英語、情報」以外は低かったが、令和2年度7月の調査では、ほぼすべての科目で評価が上がった。また、評価が下がったものは数科目しかなかった。 ○大幅に評価5が増えた科目(例) 2年現代文 2.7% ⇒ 80.5% 2年日本史B 8.8% ⇒ 90.6% 2年数学Ⅱ 22.7% ⇒ 87.9% ○元々評価5が多かった科目(例) 1年物理基礎 81.2% ⇒ 82.9% 1年コミュ英Ⅰ 75.3% ⇒ 87.3%
(2) 職員研修会の実施 I C T活用に関する職員研修会を複数回実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、密になるような全体研修は避け、学年会やネットを活用しての研修会とした。

〈2〉今年度重点目標達成のための取組に関する評価

(評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分)

評価の視点及び評価の理由	評 価
<p>(1) ICTを効果的に利用するスキルの向上 新型コロナウイルス感染拡大(第1波)による4月～5月の休校期間中、ほぼすべての科目でオンライン授業を行った。また、第3波の影響を大きく受けた12月～2月は、必要に応じて授業をオンライン配信し、新型コロナウイルスの影響で登校できない生徒の支援を行った。特に3年生については、8回線を活用して、共通テスト後の特編授業をすべてオンライン配信した。このように、今年度はICTの活用が一気に進み、スキルも飛躍的に向上した。</p> <p>(2) 生徒の主体的な学びを促す授業とICTの活用をつなげたカリキュラムの研究開発 ICTの活用により、生徒が能動的に活動する時間が増えた。また、2月には生徒一人一台タブレットが実現し、総合的な探究の時間等でのタブレット活用を始めることができた。現在、学習支援ソフトMetaMojiの研修も進めており、今後はその他の授業でもタブレット活用し、生徒の主体的な学びをより促進していきたい。</p> <p style="text-align: center;">総合評価</p>	<p style="text-align: center;">A B C D</p> <p style="text-align: center;">A B C D</p> <p style="text-align: center;">A B C D</p>

〈3〉成果と課題

<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT活用に関する研修会(学年会等を含む)を複数回実施し、誰もが利用できるスキルの共有が進んだ。また、教科内外での情報交換が増え、教材の開発と蓄積も進んだ。 ○ ほとんどの教員が毎時間タブレットを使用して授業を行うようになり、生徒が能動的に活動する場面が増えた。 ● 従来の紙の教材とデジタル教材の使い分けを考えていく必要がある。 ● ICTを活用するようになった分、通信(機器)の不調により授業が中断してしまうということが度々起こるようになった。ICTに頼りすぎないことも大切であると感じた。
--

〈4〉来年度へ向けての改善方策案

<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和4年度からの新教育課程に向けて、教科内外の相互の交流をより促進し、デジタル教材と紙の教材をうまく組み合わせ、生徒の主体的な学びの促進を図りたい。 (2) ICT機器の適正な管理に努めたい。また、ICT機器が不調のときの対処法も考えていきたい。
--

〈2〉評価分野②：生徒指導

1 今年度の重点目標と取組・実践内容

1 重点目標	生徒の自己有用感の育成
2 重点目標達成のための取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 月間生徒指導目標の掲示による生徒の意識向上。 (2) 教育相談的配慮が必要な生徒についての全職員による共通理解推進。 (3) ボランティア活動等の精選と生徒会活動の内容充実。
3 上記取組項目の具体的実践内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみをはじめとする生徒指導を全職員で積極的に行う。 ・交通安全協会と連携して、MSリーダーズによる交通安全運動を実施。 (2) <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談係、担任や学年会、保健室、スクールカウンセラーの連携を図る。 ・心の健康に関する講話を実施する。 (3) <ul style="list-style-type: none"> ・年間行事の見直しを行う。 ・生徒会活動の充実を図る。
4 目標達成度の判断・判定基準・指標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講話の感想、アンケート結果、校則改定 (2) 迷惑調査結果 (3) ボランティア活動記録、アンケート結果

2 自己評価

〈1〉評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校評議員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

<p>「生徒を対象とするアンケート結果」 《A「よくあてはまる」+B「ややあてはまる」の割合》 ※（ ）は前年度比</p>	
<p>【生活指導・教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。 	92% (+1%)
<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 	80% (-1%)
<p>【特別活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校のホームルーム活動の時間は、今後の自分にとって意義のある内容になっている。 	83% (±0%)
<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。 	88% (+2%)
<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、生徒会活動が活発である。 	79% (-1%)
<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。 	79% (-3%)
<p>「保護者を対象とするアンケート結果」 ※概ね昨年度比でプラス。</p>	
<p>【生活指導・教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるための指導を行っている。 	81% (-4%)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校では教育相談係が個々の生徒に対して適切な指導を行っている。 	65% (-4%)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 	64% (+1%)
<p>【特別指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では、部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。 	85% (-1%)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、ボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。 	62% (-6%)
<p>※特に保護者からの評価が昨年比べて低い。生徒にはもちろん、保護者にも校内での取り組みについて知ってもらえるように努力する必要がある。</p>	

〈2〉今年度重点目標達成のための取組に関する評価 (評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分)

評価の視点及び評価の理由	評価
<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部月間テーマを掲示し、様々なテーマで生徒に意識の向上を促した。特に12月には東濃西部少年センターと連携し、生活実行委員から自転車の交通安全についての啓発活動とともにテーマの説明を各クラスに行った。また一方で、掲示されたテーマ用紙を全く読んでいない生徒もいた。文字数を減らして読みやすくしたり、掲示する際に担任による生徒への働きかけ等の協力をしてもらうことが課題である。 ・3月の合格者オリエンテーションの際に入学生対象に情報モラルに関する説明を行い、意識の向上につながった。情報モラル違反で指導される生徒数は少なかったが、スマートフォンの使用時間が長い生徒が多くおり、引き続きスマホの使い方には注意させたい。 ・例年よりも回数は減ったが、交通安全協会と連携してMSリーダーズによる交通安全運動を実施することができた。その他、毎年行っている弁天町花壇の花植作業や多治見駅前清掃活動も規模を縮小して実施することができた。 	<p><input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室と保健室の利用状況の周知徹底ができた。 ・教育相談係、学年会、保健室、スクールカウンセラーと連携をとり、情報共有を図った。また教育相談や支援の必要な生徒の早期発見、対応につなげることができた。 	<p><input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の日程や役割分担の見直しにより、生徒の負担を軽減した。 ・生徒会執行部会を昼休みに昼食をとりながら行い、活動時間の確保に努めた。 ・コロナ禍で例年通りに学校行事が実施できなかったが、できることを前向きに考えさせ、生徒にとって満足のいく内容で行事を成功させることができた。 	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
<p>総合評価 コロナ禍で多くのことが例年通りにいかない中でも、柔軟に対応しながら活動することができた。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>

〈3〉 成果と課題

- 他者に対する思いやりの心もち、人のために行動できる生徒が多い。一人一人の自己有用感も少しずつ高まっていくと思われる。
- 今年度は身だしなみ指導を行わなかったが生徒は制服を正しく着こなすことができている印象である。
- セーラー服へのスラックスの導入に伴い、1年生女子生徒数名が着用している。今後も着用する生徒が増えていくと思われる。
- 情報モラルに関しては、ある程度意識を高めることができたが、生徒のスマートフォン等の使用方法や使用時間については、年々増加傾向にある。生徒がスマホとの向き合い方について考えるよう、継続して指導する必要がある。
- 欠席者数が増加傾向にある。その原因を探り、減少に向けて対策をしたい。
- 教育相談的配慮の必要な生徒が多様化しており、さらなる指導支援体制の強化が必要である。

〈4〉 来年度へ向けての改善方策案

- ・生徒が自らルールやマナーを守れるよう、引き続き掲示物等で案内する。
- ・悩みをもつ生徒や精神的に不安定な生徒が増加している。生徒指導部としてだけでなく、学校全体の問題として職員研修会等を実施する。

〈3〉 評価分野③： 進路指導

1 今年度の重点目標と取組・実践内容

1 重点目標	キャリア教育の体系的な実施と、進路実現に寄与する学力向上の支援。
2 重点目標達成のための取組	(1) キャリア教育を軸にして、本校における様々な教育活動の体系化を進め、本校進路指導の強化を図る。 (2) SGH 指定を活用した TKt, TSP, TGP 実施を通して、生徒の知的興味関心の幅を広げ、多様な進路の可能性を実感させる。 (3) 持続可能な学習支援、キャリア形成支援をさらに進める。 (4) 大学入試改革・教育改革を含めた進路情報の収集と対策を進める。
3 上記取組項目の具体的実践内容	(1) 3年間の進路行事の流れと、キャリア教育の体系を図示し共有する。 (2) 卒業生をはじめ、多様な外部人材を活用しながら各種講座の充実を図ることで、生徒の主体的な学びを促し、学習意欲を喚起する。 (3) 高大接続の動向について校外の研究会を活用して情報収集し、生徒の実態とのすりあわせを進めながら、進路実現に向けた最適な道を探り出す。 (4) 北辰講座や土曜講座、模試過去問利用など、今後も永く学力保障ができる指導体制の確立に向けて研究を進める。 (5) 小学生オープンスクールの充実など、地域の教育拠点として公教育の効果を高める役割を果たすべく、模索を継続する。
4 目標達成度の判断・判定基準・指標	(1) 事業実施の充実とその効果の検証。 (2) TKt, TSP, TGP 等の実施状況と生徒アンケートの参照。 (3) 学びの基礎診断。土曜開校等の参加状況。講座における生徒アンケート。

2 自己評価

〈1〉 評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校評議員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

必要とされる進路情報提供の場の設定、進路志望に沿った具体的な進路指導の2項目は、生徒では80%を超える肯定的評価があるものの、今年度はやや減、保護者については、前者の5%減と下げ幅が大きかった。いずれもコロナの影響は否めないものの、オンラインによる進路説明会実施によって保護者の後者への評価が上昇しなかったことの分析が必要である。

＜2＞ 今年度重点目標達成のための取組に関する評価

評価の視点及び評価の理由	評 価			
(1) 休校の影響を最小限に抑え、従来に引けを取らない成績を確保できた。	A	B	C	D
(2) オンラインによる補填はできたものの、従前の効果には届かなかった。	A	B	C	D
(3) 負担の軽減を進めつつ、徐々にではあるがスキルの蓄積が出来てきた。	A	B	C	D
(4) 新入試とコロナの影響はありながら、アンテナを高くして対応できた。	A	B	C	D
総合評価	A	B	C	D

＜3＞ 成果と課題

- 教務部の尽力を支えとしながら、新入試と非常事態に対応して、本校のあるべき進路指導を後退させることなく推進できた。
- 急速に進んだIT化への対応、新課程の入試に関する情報収集を進める必要がある。

＜4＞ 来年度へ向けての改善方策案

- (1) オンライン設備の進路指導への活用方法を確立し、指導の効率化を図る。
- (2) 今年度入試を細かく総括し、新課程の情報を集め、今後の進路指導のあり方を模索する。

II 学校関係者評価

実施年月： 令和3年2月

- [意見・要望・評価等] 【 ○高評価 △要注意・検討 ●要点検・改善 】
- △意見1 学校評価アンケートの結果より、上級学校進学に向けて生徒も保護者も学習塾の必要性を感じている傾向が見られるが、基本は学校での学習だと思うので、普段の課題や小テストを疎かにせず、それらの積み上げで入試に対応できる実力をつけられる指導をお願いしたい。
 - 意見2 臨時休校中、準備期間が短かったにも関わらず全ての教科でオンライン授業を取り入れた対応に敬服する。これを機に対面授業とオンライン授業の適切な組み合わせで、効果的な学習が達成できるようにさらに工夫することを期待する。
 - △意見3 今年は保護者などが学校に立ち入る機会が少なく、学校評価アンケートで保護者の評価を求めているにも実際には現状がよくわからなかったのではないかな。
 - 意見4 コロナ禍でも今年度初実施の大学入学共通テストへの対応を適切に行っている点が評価できる。
 - 意見5 GIGAスクール構想がコロナ禍で前倒しされ、最初は通信などのトラブルがあったようだが、△ 試行錯誤を重ね概ね対応できたと思われる。今後はICT機器活用による教育が、より効果的になるようにスキルを高めていただきたい。
 - 意見6 コロナ禍で学校行事が制限を受ける中、オンラインを駆使し文化祭や各種講義、講演会などが開催できたことはよかったと思う。コロナ禍が来年度収束しなくても、オンラインを使った学校行事がさらに充実することを望む。
 - △意見7 コロナやICTへの対応で先生方の働き方改革が一步後退している印象だが、管理職の強いリーダーシップで改革を緩めないようにしていただきたい。
 - △意見8 一人一台タブレットの配備により、生徒個々の能力に応じた指導が実現できると思うので、先生方の負担を増すことなく学習面、生徒指導面での活用を検討していただきたい。
 - 意見9 生徒指導部の目標にある「自己有用感の育成」にとっても好感が持てる。誰かのために行動を起こし認めってもらうことで自身の存在価値に気付くことは、自分自身を大切に生きていく糧になるのではないかな。
 - △意見10 コロナで大学見学会なども中止になったが、リモートで大学生の先輩と交流するなどの機会が持てるとよかったと思う。
 - △意見11 生徒指導部の反省のなかにスマホの長時間使用の問題が挙げられているが、依存症治療の専門家の講演会を企画するなどの具体的方策を検討していただきたい。